

(1) 学校教育目標	知・徳・体・情操を育み、調和のとれた人間の育成 ア 正しい判断のもとに主体的に行動する。イ 利己心を抑制し、他人の立場を考えて行動する ウ 調和のとれた人格の形成と豊かな教養を身に付ける エ 健康で安全な生活を送る態度を身に付ける オ 感謝する心、美しさを感じる心を培う
(2) 現状と課題	本校の多くの生徒は純朴で素直である。しかし、学力的には多様な生徒が入学しており、様々な支援を必要とする生徒も増加傾向にあることから、生徒に自己肯定感や自己有用感を持たせるような指導が必要である。
(3) 重点目標	1 学力の向上(確かな学力) 2 生徒指導の充実(豊かな心) 3 進路指導の充実(生徒の夢実現) 4 開かれた学校づくり(チーム三高)
(4) 結果の公表	学校ホームページで結果を公開している。保護者にはアンケート集計結果と記述欄の回答を文書で配布している。

学校整理番号	28
学校名	青森県立三戸高等学校
全日制の課程	校舎
自己評価実施日	令和6年 1月 31日(水)
学校関係者評価実施日	令和6年 2月 5日(月)

(9)-イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員4名

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9)-ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	一人ひとりの生徒が確かな学力を身に付けることができるよう、学習習慣の育成と学習内容の確実な定着を図る授業実践に努める。	①選択科目やコース制での授業を最大限に活用し、学習意欲を高めることで学習習慣の確立に努め、一人ひとりの学習成果(基礎学力の定着・志望に応じた学び)に繋げる。 ②ICTの活用やアクティブラーニング、ALT等、学習スタイルに変化をもたせ、個別最適な学びの実現を目指す。 ③総合的な探究の時間において、SDGsと持続可能なまちづくりをテーマに教科での学び等を生かし、協働や体験を豊富に取り入れた探究活動を展開する。(キャリア教育との関連)	①コース別、選択科目別、個別指導等をおし、生徒の学習習慣の確立に努め、学習意欲を高めながら学習の成果に繋げることが出来た。次年度から50分授業とし、段階的に教育課程を変更することになった。 ②ICT機器を活用できる環境作りを行った結果、先生方がタブレット端末を利用した授業を展開できるようになり、個別の最適な学びに繋げることが出来た。 ③SDGsをテーマに持続可能なまちづくり等の課題について考え、キャリア教育の内容を含んだ全体計画・年間計画を立て実施した。主体的に問題解決に向けて取り組む力や、協働する力を高めることができた。	A	・学業成績や試験結果のみではなく、生徒個々の習熟度に応じ寄り添い、背中を押しているような教育を大切にしている。 ・進学希望の生徒の学習意欲や姿勢・学習習慣の確立は1年生のクラスから強化した方が良いのではないかと感じる。 ・ICTの新たな取り組みを積極的に実践されており、良好と思われる。	①教員数の減少に伴い従来の教育課程の維持が危惧されるが、生徒の学習成果を図るため、できる限りコース制や選択科目は維持するような教育課程編成をする。 ②GIGAスクール構想に伴うICTの効果的な活用方法を考え、提案する。 ③総合的な探究の時間について、引き続きSDGsと持続可能なまちづくりをテーマにして、継続的に地域社会を活用する。
2	一人ひとりの生徒が豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会と連携を図り、生徒理解を深めるとともに道徳性の育成に努める。	①心身の不調や学校生活への不安を抱える生徒、生活習慣が乱れている生徒などと定期的に面談し、状況の改善を支援する。 ②いじめに関するアンケートを実施し、問題発生の未然防止と早期発見に繋げる。また、いじめが疑われる生徒(加害、被害の両者)と継続的に面談を行う。 ③委員会、生徒会行事への積極的な参加を促し、生徒一人ひとりに役割を与え、自ら考えて行動できるよう指導する。	①不安を抱える生徒との面談や担任からの情報を受けて、生徒へ助言・指導を行った。悩みのある生徒については、学年や専門機関と連携・協力して対応に当たった。 ②アンケートを実施し、記載内容によっては面談を行い、生徒の様子を把握した。また、不安を抱える生徒については担任からの情報を受けて、生徒へ助言・指導を行った。 ③挨拶運動では、各都で生徒玄関前での呼びかけを行い、元氣よく挨拶ができた。また、生徒会役員を中心に各委員会等でも年間計画に従い、しっかりとした活動が行われた。	A	・生徒の変化に気を配り、丁寧な対応が感じられる。三戸町の要対協力とも情報共有しながら個に応じた対応と挨拶運動等で生徒を把握する活動を、今後も継続して欲しい。 ・悩みを抱える生徒が素直に心を打ち明けられるよう、信頼関係の構築をお願いする。 ・いじめに関するアンケートについては改善を加えながら実施している。	①各学年、養護教諭、生徒指導担当と職員全体への情報提供を適宜行い、問題の共有・対処の統一を進める。 ②アンケートの取り方や質問内容などを改善し、よりよい支援に繋げる。また、普段の生徒の言動に注意し、いじめの予防、早期のいじめの認知や対策に繋げる。 ③生徒会・委員会活動等で、挨拶運動運動などの活動を通じて自分の意識、資質や能力がどのように関わったか、自己評価を行う機会を持たせる。
3	一人ひとりの生徒が自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう必要な資質・能力・態度の育成に努める。	①志望先の確定に向け、キャリア教育の年間指導計画の実践に各学年と連携して取り組む。 ・1学年 インターンシップ 職業・学問研究の充実 ・2学年 上級学校・学部・学科・企業研究の充実 ・3学年 就職試験 総合型選抜入試 学校推薦型入試 一般選抜型入試 ②1・2年からの大学等へのオープンキャンパスへの積極的な参加を推進する。	①進路志望の確定に向けて、各学年と連携して各々の進路計画を実践した。具体的には、1学年でインターンシップの計画と実施を、2学年では上級学校や企業等の研究を、3学年は進学・就職とも試験に向けての準備と、自らの体験を後輩たちへ責任を持って伝える努力を、着実に取り組むことができた。 ②オープンキャンパスへの積極的な参加を推進したことで、夏休みには国立大学に数多く参加した。また、夏以外の時期にも、各学年の生徒が志望する大学や専門学校などに参加させたことにより、生徒の見聞を広げることが出来た。	B	・現在取り組んでいる家庭学習支援や民間業者と連携した商品開発、大学との連携協定による活動など他の高校では経験できないような強みを生かした育みが個々の強みを引き出すことに繋がると感じる。 ・進路確定に向けての機会づくりは充分である。進路達成するための助言・指導・計画作りなど強化していただけたらと思う。	①外部企業が主催する進路相談会などへの参加を勧め、生徒の進路志望の研究を深める。次年度以降も様々な機会をおし積極的に有効利用していく。 ②1・2年に対するオープンキャンパスへの参加を今年度以上に促すとともに、青森大学との高大連携を生かし、早い時期から進学への意識づけを行い、進学率の向上や進路達成に繋げる。
4	小中高等連携や様々な体験活動を通して広く人間教育を行い、地域とともに歩むことができる能力と態度の育成に努める。 地域との連携・協働(その他)	①地域の人材活用 ・「総合的な探究の時間」SDGsの取組 ・みらい探究の設定 ②小中連携とボランティア活動への積極的な参加 ③体験入学、中学校訪問等の取組 ④学校魅力化からの取組 ・学校屋敷の提供 ・クリエイティブ部の創設、学校PR	①町役場等、関係機関と連携しながら、地域の課題に目を向けさせ、地域理解を深めさせる探究活動を取り入れた。 ②小中連携として、三戸小学校寺子屋ボランティアや地域ボランティア活動として桜まつりマラソン大会などに積極的に参加させることが出来た。 ③地域コーディネーターとともに全国募集を行い、体験入学、中学校訪問をし、中学校での学校説明会を実施した。 ④学校魅力化の一環として、4月から学校屋敷の提供など様々なことを行うことができた。また、クリエイティブ部を創設しポスターを作成し学校PRに繋げることが出来た。	A	・学びの場を学校内だけでなく、地域へ広げていることで、生徒は幅広い体験を通じ、実践的なスキルを得ていると感じる。多くの人と関わること大切に、感謝する心の醸成に繋げて欲しい。 ・新聞やニュースで積極的な取り組みが見えて、町民の皆さんからの喜びの声が多く聞こえる。今後も、役場などとコミュニケーションをよりよく願う。 ・青森県立の高校で初めて給食スタイルの昼食提供が始まり、また、クリエイティブ部がメディア等に取り上げられる機会が増えて、新入生が増えてもらいたい。	①人口減少対策プロジェクトなどを取り上げており、町役場や地域の各種団体などのステークホルダーを活用しながら、地域との連携に取り組む。 ②地域活動やボランティア活動などの体験活動を通して、生徒が自発的・主体的に参加できるよう促していく。 ③中学校訪問などを行うとともに、体験入学など様々な機会をおとして、本校のPRに取り組む。 ④学校活性化会議などの視点や意見を参考に、今後も学校の活性化や魅力の向上を図る。

(11) 総括	少人数指導の利点を生かし、生徒一人ひとりにきめ細やかな教育が実践できています。また、地元三戸町を中心として、地域との連携を大切に、できるだけ地域の要望に応え、地域のボランティア活動をはじめ生徒に各種活動を体験させることができた。今年度も教育目標である「知・徳・体・情操を育み、調和のとれた人間の育成」は概ね達成できた。来年度も小規模校の利点を生かしながら、生徒一人ひとりの希望や能力、適性をしっかりと見極めながら生徒全員の力を養う教育活動を展開し、地域の学校として期待に応えていく。
---------	---